

平成24年度 呉市病院事業改革プラン評価委員会の評価・助言

開催日：平成24年11月1日

場 所：すこやかセンターくれ

評価・助言	対応（進捗）状況
1 一般会計繰入金	
(1) 医業外収益が増えているが、市からの補助金か。今後もこれくらいの数字で推移していくのか。	<p>ア 次のような取り組みを行うことで収益改善を図り、一般会計からの繰入金の縮減に努めます。</p> <p>(ア) 医療・介護・福祉施設との連携を更に強化し、病床稼働率のアップに努めます。</p> <p>(イ) 診療報酬の加算等取りこぼしがないよう、医療事務を徹底します。</p> <p>(ウ) 入院患者単価2万円を目標に、増収に努めます。</p> <p>(エ) 住民ニーズの高いリハビリ部門スタッフの増員を図ります。</p> <p>(オ) 医薬材料の在庫管理を一層徹底するなど経費削減を図ります。</p> <p>イ 耳鼻科や眼科などの特殊診療科目は地域に他の医療機関がないため、収益に関係なく継続します。</p>
2 事業規模・形態	
<p>(1) 病院の待合室にはたくさんの患者さんが待っている。地域にはなくてはならない、頼りにされている病院。赤字でも存続すべき。</p> <p>(2) 過疎地域での病院の存在意義は大きい。</p> <p>(3) 本委員会では、病院の必要性については認めている。地域医療を守るために頑張ってください。</p>	<p>ア 当院の存在意義は、一つは、急性期病院の後方支援病院、もう一つは安芸灘島しょ部の初期救急病院だと考えています。これからも地域のニーズに合った医療を提供できるよう努めていきます。</p>
3 収入増加・確保対策	
<p>(1) 第2次改革プランに認知症外来を新設するとあるが、どのようなことを考えているか。内容によっては、地域連携病院である中国労災病院との連携も可能だ。</p> <p>(2) 院長がリハビリの専門医でもあることから、リハビリ部門を強化すべき。</p> <p>(3) 連携バスを増やし、地域連携病院である中国労災病院との患者の行き来を増やすべき。</p> <p>(4) リハビリ部門を強化し、院内にPT(理学療法士)OT(作業療法士)が増えると病院も活気づく。</p>	<p>ア 外来領域での患者の早期発見、早期診断・治療や地域での啓蒙活動などを行います。MRI(磁気共鳴画像装置)を導入後は、VSRAD診断(ブイエスラド：早期アルツハイマー型認知症(痴呆症)診断支援システム)なども積極的に行います。</p> <p>イ 高齢者の多い島しょ部では、脳卒中や整形などリハビリを必要としている患者が多いことや、少ない投資である程度の増収も見込めることから、リハビリ部門の強化は必ず必要だと考えています。また、地域連携バスも積極的に利用していきます。</p>
4 その他	
<p>(1) 救急患者の搬送にあたっては、症状によって搬送先を決定する一方、本人の希望にもよるところが大きい。住民に信頼される病院になることが重要だ。</p> <p>(2) 研修医を積極的に受け入れることで、病院も活気づく。</p> <p>(3) 公立の病院である強みを生かして、保健師との連携強化により病院のPRを図ったらどうか。</p> <p>(4) 送迎バスを走らせてはどうか。</p>	<p>ア 地域住民に愛される、信頼される病院になるよう努めます。</p> <p>イ 平成23年度は7名、24年度は8名の研修医を受け入れました。今後も、積極的に研修医を受け入れていきます。</p> <p>ウ 検診後のフォローアップ、病院と保健師共同での講演会の開催など、積極的に連携していきます。</p> <p>エ 現在、一部地域限定で外来患者の送りを実施しています。公立の病院であるため、積極的にバスを走らせることはできませんが、引き続き住民サービスの向上に努めます。</p>
5 委員会まとめ	
<p>(1) 安芸灘島しょ部の中核的な病院として地域医療を守るべき。</p> <p>(2) へき地での医療の確保は、不採算な部門も多く赤字もやむを得ない。</p> <p>(3) 引き続き経営改善に取り組むべき。</p>	